

平成28年No.16 鉄骨構造

1. 超高カボルト F14T 級 → F10T と比べてボルト本数を減らしてスライソプレートを小さくできる
2. 高カボルト摩擦接合の短期許容応力度 → 1面摩擦: $0.45T_0$, 2面摩擦: $0.9T_0$
3. 露出形式柱脚におけるベースプレート厚さ → アンカーボルト径の1.3倍以上とする
4. 埋込形式柱脚 → 曲げモーメントとせん断力は鉄骨柱とコンクリートとの支圧に依り伝達する

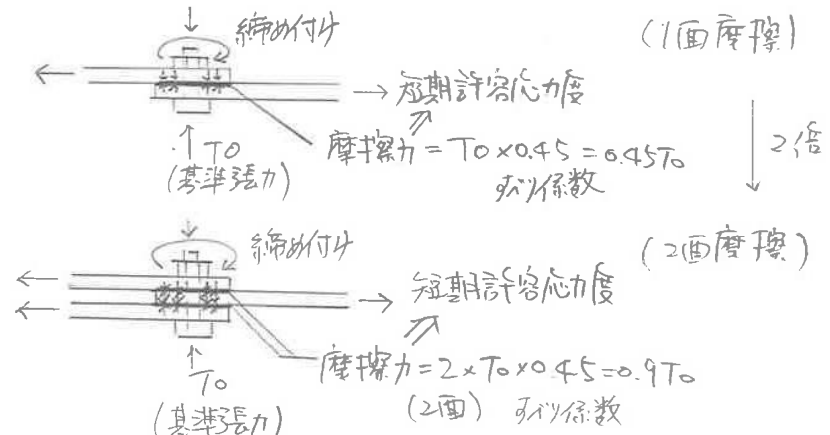
◎ 超高カボルト F14T 級 (耐遅く破壊特性)

↓
F14T 級 締め付け後ある時間経過後突然破壊する現象

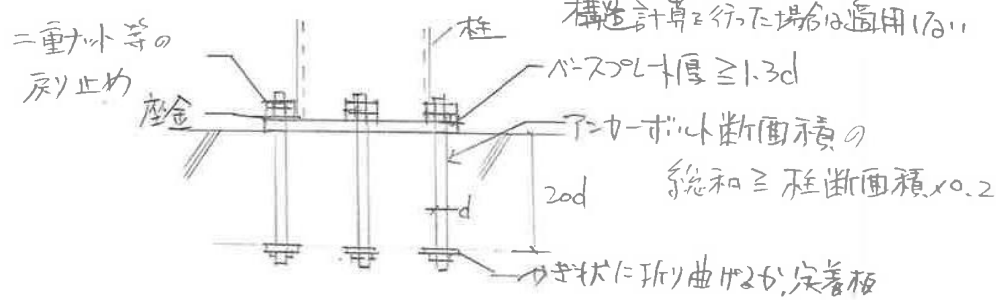
| | |
|--|------------------|
| → 31張強さ 1400 N/mm^2 基準張力 760 N/mm^2 | ← 強度が高い |
| F10T → 31張強さ 1000 N/mm^2 基準張力 500 N/mm^2 | ← 継手部のボルト本数が減る |
| (例) | ← スライソプレートが小さくなる |

F10T 6本 → F14T 4本

◎ 高カボルト摩擦接合の短期許容応力度 令92条の2



◎ 露出形式柱脚におけるベースプレート厚さ 告示1456号



◎ 埋込形式柱脚 告示1456号

